

010241

福建省龍海縣地方誌編纂委員會

The Editorial Commission of Gazetteer
of Longhai County, Fujian Province

龍海縣誌

THE GAZETTEER OF
LONGHAI COUNTY

黃劍嵐 主編

Chief Editor HUANG JIANLAN

東方出版社

DONGFANG PUBLISHING HOUSE

●中國地方志

龍海縣志

●福建省龍海縣地方志編纂委員會

●主編 黃劍嵐 副主編 陳吳泉 張日慶

東方出版社

1993·北京

龍海縣地方志編纂委員會

主 任 桂其明
副主任 許魁偉 倪合福 黃桂美 蔡建興
黃劍嵐
委 員 蔡德根 林榮贊 張亞清 阮榮龍
王瑞元 方亞秀 陳倫志 郭紹鐘
蘇延河 謝樹根 黃永佳 李春暉
郭振華

龍海縣志審稿委員會

主 任 桂其明
副主任 鄭道溪 葉錦裕 郭彩洪
委 員 楊榮古 張亞清 陳添裕 阮亞宏
黃智旭 郭紹鐘 蔡其明 蔡聰文
林本諒 陳連成 黃伯宏

龍海縣志編輯部

主 編 黃劍嵐
副主編 陳吳泉 張日慶
編 輯 黃超雲 黃昆發 周錫禹 藍振德
蔡鍾炎 鄭松山 柯振興 劉瓊瑤
鄭爐港

龍海縣地方志編纂委員會

主 任 桂其明
副主任 許魁偉 倪合福 黃桂美 蔡建興
黃劍嵐
委 員 蔡德根 林榮贊 張亞清 阮榮龍
王瑞元 方亞秀 陳倫志 郭紹鐘
蘇延河 謝樹根 黃永佳 李春暉
郭振華

龍海縣志審稿委員會

主 任 桂其明
副主任 鄭道溪 葉錦裕 郭彩洪
委 員 楊榮古 張亞清 陳添裕 阮亞宏
黃智旭 郭紹鐘 蔡其明 蔡聰文
林本諒 陳連成 黃伯宏

龍海縣志編輯部

主 編 黃劍嵐
副主編 陳吳泉 張日慶
編 輯 黃超雲 黃昆發 周錫禹 藍振德
蔡鍾炎 鄭松山 柯振興 劉瓊瑤
鄭爐港

龍海縣地方志編纂委員會

主 任 桂其明
副主任 許魁偉 倪合福 黃桂美 蔡建興
黃劍嵐
委 員 蔡德根 林榮贊 張亞清 阮榮龍
王瑞元 方亞秀 陳倫志 郭紹鐘
蘇延河 謝樹根 黃永佳 李春暉
郭振華

龍海縣志審稿委員會

主 任 桂其明
副主任 鄭道溪 葉錦裕 郭彩洪
委 員 楊榮古 張亞清 陳添裕 阮亞宏
黃智旭 郭紹鐘 蔡其明 蔡聰文
林本諒 陳連成 黃伯宏

龍海縣志編輯部

主 編 黃劍嵐
副主編 陳吳泉 張日慶
編 輯 黃超雲 黃昆發 周錫禹 藍振德
蔡鍾炎 鄭松山 柯振興 劉瓊瑤
鄭爐港

責任編輯：喬還田 徐 立

護封設計：王彩萍

圖書在版編目(CIP)數據

龍海縣志／福建省龍海縣地方志編纂委員會

黃劍嵐主編

LONGHAI XIANZHI

—北京：東方出版社，1993.6

ISBN 7-5060-0401-1

I 龍…

Ⅰ ①福…②黃…

Ⅱ 地方志—龍海

NK295.74

東方出版社出版發行

(100706 北京朝陽門內大街166號)

香港中國經濟出版社承制 新華書店經銷

1993年6月第1版 1993年6月北京第1次印刷

開本：787×1092毫米1/16 印張80 插頁56

字數：1833千字 印數：0—5000冊

定價：人民幣118.00元 美元120.00元

序一

桂其明

古之九龍戲水處，滄海桑田，紫陽過化，造就襟海帶江鍾靈毓秀之海濱鄒魯。悠悠千餘載，延至今日龍海縣。

中共十一屆三中全會以來，政通人和，百廢俱興。盛世修志，歷史使然。地方志編纂委員會及其辦公室諸君，躬身龍海縣第一部社會主義新縣志編修，劬力奮筆，俯拾珠璣，凡八載有餘。上溯置縣之初，搜補清乾隆後之空闕，下及撤縣建市止，使之成為貫古通今之完整志書，可謂龍海縣迄今為止一部最為宏制之“百科全書”。

宋淳祐《龍溪縣志》早佚，大規模編纂《龍溪縣志》和《海澄縣志》，終於清乾隆二十七年（1762年）。龍海縣由龍溪、海澄兩縣於1960年合併而成。年代屢易，時事變遷。因《龍海縣志》上接龍溪、海澄縣志最後一版之墜緒，作為龍溪、海澄置縣千百年之終結，亦為將來編纂《龍海市志》開拓先河，故其付梓，誠為承前啓後、繼往開來之不朽盛事。

古人云：“治天下者以史為鑒，治郡國者以志為鑒。”鑒者，鏡也。後人可由志書窺見歷史上成功之經驗與失敗之教訓，把國家與地方治理得更好。否則，一葉障目，莫能知全貌；盲人騎瞎馬，未能知前程。而《龍海縣志》將古今歷史呈現於諸君之前，使“疑今者察之古，不知來者視之往”，於改革開放之千秋大業，有莫大裨益。

《龍海縣志》在龍海撤縣建市之際面世，諸君當憑此書以了解龍海的方方面面，妍媸並見，察及秋毫。然讀志在於致用，鑒古察今，務在求索前進。離開實用，志書則無重大價值。所謂實用，不在於以博識龍海事物以自炫，而在於“欲以究天人之際，通古今之變”，由“通古”而“知今”，進而廣求“致遠”。此乃修志之真正目的。

誠望海內外諸君，共同弘揚龍海之優良傳統，攜手為龍海市的崛起和繁榮而奮鬥。

是為序。

一九九三年四月六日

28

序二

鄭道溪

龍海縣位居閩南三角洲。自唐以物華天寶、人杰地靈成爲漳州首縣，飲譽八閩大地。九龍江流貫縣境經海門島入海，鷹廈鐵路、國道324綫途經龍海，東壤廈門，西通粵東，水陸交通十分便捷，歷來爲閩西南物資集散地。境內良田彌望，嘉果滿山，文物豐盛，風景清佳，有“魚米花果之鄉”美譽。

欣逢盛世，百業俱興。修志人員廣搜博采，殫精竭慮，八年苦斗，六易其稿，上承前志精華，下聚各方卓見，終使《龍海縣志》告竣。縱觀歷史，鑒古昭示，經濟發展機遇不常有。抓住機遇，敢爲人先，遂商賈雲集，經濟繁榮。龍海自梁武帝大同六年(540年)至明隆慶元年(1567年)千餘載，才遇明廷海禁開放，月港辟爲對外貿易商埠，准與東西洋貿易。先民駕舟航行於東西洋諸多國家與地區，使月港出現“香塵載道，玉悄盈衢，畫鷁迷江，炙星不夜，風流較轉于晉室，俗尚轆乎吳門”之繁華。但自明天啓元年(1621年)後月港由盛轉衰，到清初廈門興起之時，當年勝概，每況愈下，且經歷三個多世紀。由此，頓失出海口，外接內聚受阻。

我國改革開放以來，東風勁催着大潮。龍海被國務院列爲首批對外開放縣後，“見機而作，不俟終日”；籌資集款，群策群力。經濟逐漸復蘇，設施日臻完善。海外三胞紛紛競進，投資興業，方興未艾。卓識遠見的招商局集團、中銀集團等財團已履足港尾擲投巨資建設海港，進而建成27平方公里的綜合性外向型經濟開發區，一座繁華的港口將屹立於閩南海岸綫上。龍海崛起，是日近矣！

《詩經》曰：“維桑與梓，必恭敬止。”逢祖國改革開放之際，值龍海由縣改市之時，遇潛龍待飛之機，我真誠希望生長在這塊熱土上的人民，以及熱心桑梓建設的“三胞”，把握機遇，衆志成城，爲振興龍海獻才華，爲建設龍海竭全力。

一九九三年四月十日

凡 例

一、龍海縣由龍溪縣和海澄縣於1960年合併而成。本志於兩縣合併前按龍溪縣、海澄縣史實分寫。龍溪縣治與漳州州治同處一城歷時久遠，本志上遡的大部份資料和漳州城歷史有不可分離的關係。

二、本志貫串古今，略古詳今，重在實用。上限追遡事物起始，下限截至1991年。1992年資料以附錄形式置於志末，以備與將來的《龍海市志》相銜接。

三、本志主體由彩色照片、總述、專業分志、人物志和大事記組成。總述列於志首，統攝全書。專業分志三十八卷，以卷、章、節、目分成層次，橫排門類，縱寫史實，圖表參插。人物分傳、譜、表，以本籍為主，客籍人物對本縣有重大關係的也予收錄，均按生年為序排列。大事記採用編年體兼紀事本末體纂述，置於志末。

四、本志歷史紀年表示法：新中國成立以前各個時期，王朝以年號紀年括注公元紀年；民國時期年序不括注公元紀年，閱者以民國年序加1911年即為公元紀年。中國共產黨活動事件採用公元紀年。縣境解放之後稱“解放後”，中華人民共和國成立之後稱“建國後”或“新中國成立後”，都用公元紀年。月日寫法，農曆用漢字、公歷用阿拉伯字。

五、本志所記地名，中華人民共和國成立前的依當地的歷史習慣稱呼，新中國成立後採用民政部門審定的標準地名，未經審定的以習用的為正名。

六、本志人名一律直叙姓名，官職用當時制度規定的名稱記載。

七、本志所用數據：歷史數據，文獻資料中數據經考證後使用。1949年以前龍溪縣、海澄縣的統計數字，系按各該縣行政區域分別統計的數字。1949～1959年龍溪、海澄兩縣的合計數字系按龍海縣現行行政區域的合計數字。大部份數據以政府統計部門公布的數字為準，一部份採用經核實的職能部門數字。

八、本志貨幣單位表示法：歷史上習用的貨幣單位都按當時習用貨幣單位記述。1949年9月至1953年流通的以萬元為單位的人民幣，一律換算為以元為單位的新人民幣單位。建國後統計的金額數字統一按照1980年不變價格可比口徑計算。

九、本志度量衡單位表示法，除歷史上習用的單位之外，都採用國家規定的標準公制單位。

十、本志方言注音，採用國際音標標調注音。

目 錄

龍海縣行政區圖

彩色照片

序一

序二

凡例

總述

卷一 建置

第一章 置縣沿革	(3)	第二節 海澄縣轄區	(13)
第一節 隸屬	(3)	第三節 龍海縣轄區	(16)
第二節 境域	(4)	第三章 縣城鄉鎮	(17)
第二章 行政區劃	(5)	第一節 縣城	(17)
第一節 龍溪縣轄區	(5)	第二節 鄉鎮	(22)

卷二 自然環境

第一章 地質	(40)	第一節 水稻土	(58)
第一節 地層	(40)	第二節 磚紅壤性紅壤	(59)
第二節 侵入岩	(41)	第三節 紅壤	(59)
第三節 地質構造	(41)	第四節 沖積土、風沙土、鹽土	(60)
第四節 礦藏	(42)	第六章 植被	(60)
第二章 地貌	(43)	第一節 植被類型	(60)
第一節 海陸變遷	(43)	第二節 植物名稱	(62)
第二節 內陸地貌	(44)	第七章 野生動物	(70)
第三節 沿海島礁灣岬	(46)	第一節 野獸	(70)
第三章 氣候	(48)	第二節 飛禽	(70)
第一節 氣象要素	(48)	第三節 水生動物	(71)
第二節 氣候分區與作物季節	(51)	第四節 其它動物	(74)
第四章 水文	(52)	第八章 自然災害	(74)
第一節 地表水	(52)	第一節 天氣災害	(74)
第二節 地下水	(54)	第二節 地震	(79)
第三節 潮汐	(57)	第三節 咸鹼害	(79)
第五章 土壤	(58)		

卷三 人口

第一章 人口遷徙	(83)	第二章 人口數量與分布	(85)
第一節 人口來源	(83)	第一節 人口數量	(85)
第二節 人口外流	(84)	第二節 人口分布	(88)

第三章 人口構成..... (90)	第四章 計劃生育..... (99)
第一節 民族姓氏構成..... (90)	第一節 機構隊伍..... (99)
第二節 性別構成..... (91)	第二節 政策措施..... (99)
第三節 年齡構成..... (92)	第三節 晚婚晚育..... (100)
第四節 家庭婚姻構成..... (94)	第四節 節育絕育..... (101)
第五節 文化構成..... (96)	第五節 優生優育..... (102)
第六節 職業構成..... (96)	

卷四 農業

第一章 生產關係變革..... (105)	第一節 耕作制度..... (125)
第一節 封建土地所有制..... (105)	第二節 良種繁育推廣..... (127)
第二節 土地改革..... (106)	第三節 主要作物栽培技術..... (129)
第三節 農業互助合作..... (107)	第四節 合理施肥..... (131)
第四節 人民公社..... (108)	第五節 作物病蟲害防治..... (132)
第五節 聯產承包責任制..... (109)	第六章 飼養業..... (134)
第二章 農業基本條件..... (110)	第一節 家禽飼養..... (134)
第一節 耕地..... (110)	第二節 家畜飼養..... (136)
第二節 勞動力..... (111)	第三節 蜜蜂飼養..... (137)
第三節 農業區劃..... (113)	第四節 食用菌栽培..... (138)
第三章 農業機械..... (115)	第五節 禽畜疫病防治..... (139)
第一節 農機發展概況..... (115)	第七章 農業管理..... (140)
第二節 農業機具..... (116)	第一節 種植業管理..... (140)
第四章 主要作物種植..... (119)	第二節 養殖業管理..... (141)
第一節 糧食作物種植..... (119)	第三節 農業機械化管理..... (142)
第二節 經濟作物種植..... (122)	第四節 農場..... (143)
第五章 農業技術..... (125)	

卷五 林業

第一章 林業用地與樹竹種類..... (146)	第二節 封山育林..... (159)
第一節 林業用地..... (146)	第三節 森林蟲病害防治..... (160)
第二節 樹竹種類..... (147)	第四節 以法治林..... (161)
第二章 森林營造..... (149)	第四章 森林蓄積與采伐..... (162)
第一節 采種育苗..... (149)	第一節 森林蓄積..... (162)
第二節 植樹造林..... (151)	第二節 森林采伐..... (163)
第三節 森林撫育..... (155)	第五章 林業管理..... (164)
第四節 成林林種..... (155)	第一節 山林權屬..... (164)
第三章 森林保護..... (159)	第二節 林業機構..... (166)
第一節 森林防火..... (159)	第三節 林政管理..... (167)

29

卷六 花果

第一章 花卉 盆景	(171)	第三節 名優水果	(179)
第一節 花卉生產	(171)	第四節 面積與產量	(182)
第二節 花卉種類	(172)	第五節 經營管理	(185)
第三節 水仙花	(172)	第三章 著名花果主產地	(188)
第四節 其他名花	(174)	第一節 百花村	(188)
第五節 盆景藝術	(175)	第二節 水仙花專業村蔡坂	(189)
第二章 果樹	(176)	第三節 九湖萬畝荔枝園	(189)
第一節 果樹生產	(176)	第四節 菠蘿之鄉程溪	(191)
第二節 水果種類	(178)	第五節 楊梅專業村際都	(192)

卷七 漁業

第一章 漁業生產條件	(195)	第二節 海水養殖	(207)
第一節 水域	(195)	第三節 主要養殖基地	(209)
第二節 漁用機具	(195)	第四章 水產品與漁需物資經營	(210)
第三節 漁業人口與勞力	(200)	第一節 水產品經營	(210)
第四節 漁用設施	(200)	第二節 水產品加工	(212)
第二章 漁業捕撈	(202)	第三節 漁需物資供應	(213)
第一節 江河捕撈	(202)	第五章 漁業管理	(214)
第二節 近海捕撈	(202)	第一節 漁業體制	(214)
第三節 遠海捕撈	(203)	第二節 主要漁村	(215)
第三章 水產養殖	(205)	第三節 漁政管理	(217)
第一節 淡水養殖	(205)		

卷八 水利

第一章 灌溉工程	(221)	第三章 重災年修堤堵江	(237)
第一節 引水工程	(221)	第一節 “8·23”水毀工程搶修	(237)
第二節 蓄水工程	(224)	第二節 “6·9”水毀工程搶修	(238)
第三節 提水工程	(231)	第三節 1963年抗旱堵江	(238)
第二章 堤防排澇工程	(232)	第四章 水利管理	(240)
第一節 堤防工程	(232)	第一節 水利機構	(240)
第二節 排澇工程	(235)	第二節 工程管理	(241)

卷九 工業

第一章 工業所有制	(245)	第四節 集體所有制工業	(248)
第一節 私營工業、手工業	(245)	第五節 中外合資、合作、獨資工業	(249)
第二節 公私合營工業	(246)	第二章 工業門類	(250)
第三節 全民所有制工業	(246)	第一節 食品工業	(250)

第二節 化學工業	(252)	第三章 工廠與產品選介	(263)
第三節 電力工業	(253)	第一節 工廠選介	(263)
第四節 冶金機械工業	(254)	第二節 產品選介	(268)
第五節 建築材料工業	(254)	第四章 生產經營管理	(272)
第六節 造船工業	(255)	第一節 管理機構	(272)
第七節 金屬制品工業	(256)	第二節 計劃管理	(273)
第八節 造紙、紙制品、印刷工業	(256)	第三節 生產管理	(273)
第九節 皮革、塑料制品工業	(257)	第四節 質量管理	(274)
第十節 紡織、服裝鞋帽工業	(258)	第五節 財務管理	(274)
第十一節 木、竹、藤制品工業	(259)	第五章 省、市屬工廠	(274)
第十二節 陶瓷工業	(260)	第一節 省屬工廠(場)	(274)
第十三節 其他工業	(261)	第二節 市屬工廠	(275)

卷十 交通運輸

第一章 陸路交通	(278)	第三節 碼頭	(287)
第一節 古道	(278)	第三章 運輸	(290)
第二節 公路	(278)	第一節 客運	(290)
第三節 鐵路	(281)	第二節 貨運	(292)
第四節 橋梁	(282)	第三節 裝卸 搬運	(294)
第五節 渡口	(284)	第四章 交通運輸管理	(296)
第二章 水路交通	(285)	第一節 航政管理	(296)
第一節 航線	(286)	第二節 公路交通管理	(297)
第二節 港口	(287)	第三節 運輸管理	(298)

卷十一 郵政電信

第一章 郵政	(301)	第二節 電話	(312)
第一節 郵政機構	(301)	第三章 企業管理	(317)
第二節 郵路	(304)	第一節 勞動管理	(317)
第三節 郵政業務	(306)	第二節 質量管理	(318)
第二章 電信	(310)	第三節 計財供應管理	(319)
第一節 電報	(310)		

卷十二 城鄉建設

第一章 舊縣城建設	(322)	第四節 園林綠化	(327)
第一節 龍溪縣城建設	(322)	第三章 鄉鎮建設	(328)
第二節 海澄縣城建設	(323)	第一節 鄉鎮所在地建設	(328)
第二章 新縣城建設	(323)	第二節 村莊建設	(332)
第一節 街道建設	(324)	第四章 建築	(334)
第二節 房屋建設	(325)	第一節 建築結構與造型	(334)
第三節 供水供電	(326)	第二節 建築隊伍	(337)

第三節 設計與施工	(337)	第三節 地政管理	(340)
第五章 房地產管理	(339)	第六章 環境保護	(341)
第一節 建設規劃管理	(339)	第一節 環境污染	(341)
第二節 房產管理	(339)	第二節 環境治理	(342)

卷十三 商業

第一章 商業所有制	(346)	第三章 商業經營	(357)
第一節 私營商業	(346)	第一節 農副產品收購銷售	(357)
第二節 公私合營商業	(348)	第二節 生產資料採購供應	(363)
第三節 集體商業	(349)	第三節 生活資料採購銷售	(369)
第四節 國營商業	(350)	第四章 飲食服務行業	(373)
第二章 市場與交易	(351)	第一節 飲食業	(374)
第一節 網點設置	(351)	第二節 服務業	(375)
第二節 市場貿易	(352)		

卷十四 糧食

第一章 糧食市場	(378)	第一節 糧食儲存	(391)
第一節 民間糧食貿易	(378)	第二節 糧食調運	(393)
第二節 國營糧食調劑	(380)	第四章 糧食飼料加工	(395)
第三節 市場糧食價格	(381)	第一節 糧食加工	(395)
第二章 糧食購銷	(382)	第二節 飼料加工	(398)
第一節 糧食征購	(382)	第五章 糧政管理	(399)
第二節 糧食供應	(385)	第一節 管理機構	(399)
第三節 國營購銷牌價	(390)	第二節 管理體制	(400)
第三章 糧食儲運	(391)		

卷十五 對外經濟貿易

第一章 口岸	(404)	第四章 對外經濟技術合作	(421)
第一節 口岸設置	(404)	第一節 “三來一補”	(421)
第二節 口岸管理	(406)	第二節 外資、合資、合作企業	(422)
第二章 出口	(407)	第三節 經濟技術合作	(428)
第一節 出口商品	(407)	第四節 勞務輸出	(428)
第二節 出口創匯	(417)	第五章 外經外貿管理	(429)
第三章 進口	(418)	第一節 管理體制	(429)
第一節 進口商品	(418)	第二節 創匯基地建設	(429)
第二節 引進	(420)		

卷十六 鄉鎮企業

第一章 鄉鎮企業形式	(434)	第一節 鄉辦企業	(434)
------------------	-------	----------------	-------

第二節 村辦企業	(434)	第五節 商業、飲食、服務企業	(444)
第三節 聯辦企業	(434)	第三章 廠場與產品選介	(445)
第四節 個體辦企業	(435)	第一節 廠場選介	(445)
第五節 《“三來一補”與“三資企業”》 ..	(435)	第二節 產品選介	(448)
第二章 鄉鎮企業門類	(437)	第四章 經營管理	(449)
第一節 工業企業	(437)	第一節 管理機構	(449)
第二節 農業企業	(442)	第二節 產品購銷	(450)
第三節 建築企業	(443)	第三節 人員培訓	(450)
第四節 交通運輸企業	(444)	第四節 生產責任制	(451)

卷十七 財政稅務

第一章 財稅體制	(455)	第二節 工商各稅	(466)
第一節 財政體制	(455)	第三節 其它捐稅	(473)
第二節 稅務體制	(456)	第四章 管理與監督	(474)
第二章 財政收支	(457)	第一節 預算、會計管理	(474)
第一節 財政收入	(457)	第二節 財務管理	(475)
第二節 財政支出	(458)	第三節 稅務管理	(477)
第三章 賦稅	(464)	第四節 審計監督	(479)
第一節 田賦 農業稅	(464)		

卷十八 金融

第一章 金融實業組織	(482)	第六節 結算	(498)
第一節 當舖錢莊	(482)	第四章 代理業務	(499)
第二節 僑匯解送組織	(483)	第一節 金庫	(499)
第三節 銀行 保險公司	(483)	第二節 債券	(500)
第四節 信用合作社	(486)	第三節 世界銀行貸款	(501)
第二章 貨幣	(486)	第五章 保險	(502)
第一節 金屬幣	(486)	第一節 保險種類	(502)
第二節 紙幣	(488)	第二節 保費與理賠	(502)
第三章 金融業務	(490)	第三節 保險宣傳	(503)
第一節 存款	(490)	第六章 金融管理	(504)
第二節 僑匯	(492)	第一節 現金管理	(504)
第三節 農業貸款	(493)	第二節 金融市場管理	(505)
第四節 工商業貸款	(495)	第三節 金融機構管理	(506)
第五節 固定資產貸款	(496)		

卷十九 工商行政管理

第一章 市場管理	(509)	第三節 市場管理	(511)
第一節 市場設置	(509)	第四節 查處走私、投機倒把活動	(513)
第二節 市場建設	(511)	第二章 工商企業登記管理	(514)

30

第一節 個體私營企業登記管理	(514)
第二節 國營集體企業登記管理	(516)
第三章 合同、商標、廣告管理	(518)
第一節 經濟合同管理	(518)
第二節 商標管理	(519)
第三節 廣告管理	(524)
第四章 物價管理	(525)

第一節 物價調整	(525)
第二節 市場價格	(526)
第三節 市物價檢查	(531)
第五章 計量標準管理	(532)
第一節 度量衡演變	(532)
第二節 計量檢查	(533)
第三節 標準化管理	(534)

卷二十 經濟計劃與統計

第一章 國民經濟計劃	(537)
第一節 計劃管理體制	(537)
第二節 計劃的編制與執行	(537)
第二章 經濟結構	(541)
第一節 社會生產結構	(541)
第二節 農村產業結構	(542)
第三節 農業內部結構	(543)
第四節 工業內部結構	(544)
第三章 國民經濟統計	(548)

第一節 統計機構	(548)
第二節 管理機制	(548)
第三節 專業統計	(549)
第四節 專門調查	(552)
第五節 統計服務與監督	(554)
第四章 人民經濟生活	(555)
第一節 農村居民生活	(555)
第二節 城鎮居民生活	(557)

卷二十一 政黨

第一章 中國共產黨龍海地方組織 ..	(562)
第一節 組織狀況	(562)
第二節 黨的代表大會	(567)
第三節 縣委主要的領導工作	(570)
第四節 黨的建設	(575)
第五節 宣傳工作	(576)
第六節 統戰工作	(578)
第七節 紀律檢查	(579)
第二章 中國國民黨龍溪、海澄地方組織 ..	(580)
第一節 國民黨龍溪縣黨部	(580)
第二節 國民黨海澄縣黨部	(582)
第三章 民主黨派龍海地方組織	(583)

第一節 中國國民黨革命委員會龍海縣總支委會	(584)
第二節 中國民主同盟龍海縣支委員會	(584)
第三節 中國農工民主黨龍海縣總支委員會 ..	(585)
第四節 中國民主促進會龍海縣支部委員會 ..	(585)
第五節 中國致公黨龍海縣支部委員會	(586)
第六節 臺灣民主自治同盟龍海縣支部委員會 ..	(587)

卷二十二 政權政協

第一章 縣署 縣政府	(590)
第一節 縣署 廳署	(590)
第二節 縣政府	(602)
第二章 縣參議會	(607)

第一節 參議會組織	(607)
第二節 參議員選舉	(608)
第三節 諮詢與活動	(609)
第三章 縣人民代表大會	(609)
第一節 人民代表選舉	(609)

第二節 縣各界人民代表會議	(613)	第二節 基層政權	(625)
第三節 縣人民代表大會	(613)	第三節 主要政務	(625)
第四節 常務委員會	(616)	第五章 縣人民政治協商會議	(632)
第五節 議案和建議	(617)	第一節 組織機構	(632)
第四章 縣人民政府	(618)	第二節 縣政協歷屆委員會會議	(635)
第一節 政府機構	(618)	第三節 參政議政	(637)

卷二十三 社會團體

第一章 工人團體	(642)	第四節 個體勞動者協會	(662)
第一節 工會	(642)	第六章 公益團體	(663)
第二節 總工會	(642)	第一節 紅十字會	(663)
第二章 農民團體	(647)	第二節 殘疾人聯合會	(664)
第一節 農會	(647)	第三節 關心下一代協會	(665)
第二節 農民協會	(647)	第七章 宗教團體	(665)
第三節 貧下中農協會	(649)	第一節 基督教“三自”愛國運動委員會	(665)
第三章 青少年團體	(650)	第二節 天主教愛國運動委員會	(666)
第一節 三青團	(650)	第八章 歸僑、臺胞、海外聯誼團體	(666)
第二節 共產主義青年團	(651)	第一節 歸國華僑聯合會	(666)
第三節 青年聯合會	(654)	第二節 臺灣同胞聯誼會	(667)
第四節 少年先鋒隊	(655)	第三節 旅臺同胞親屬聯誼會	(668)
第四章 婦女團體	(656)	第四節 海外聯誼會	(668)
第一節 婦女會	(656)	第九章 科技、文化、衛生團體	(669)
第二節 婦女聯合會	(656)	第一節 科學技術協會	(669)
第五章 工商業者團體	(659)	第二節 文學藝術界聯合會	(670)
第一節 商會	(659)	第三節 對外文化交流協會	(670)
第二節 工商業聯合會	(660)	第四節 農村衛生協會	(671)
第三節 外商投資企業協會	(662)		

卷二十四 民政

第一章 擁軍優撫	(675)	第二節 軍隊離退休人員安置	(688)
第一節 擁軍	(675)	第三節 殘疾人安置	(688)
第二節 優待	(676)	第四節 收容遣送	(689)
第三節 撫恤	(677)	第四章 扶持	(689)
第四節 烈士褒揚	(679)	第一節 扶貧	(689)
第二章 救濟福利	(680)	第二節 扶持革命老區	(690)
第一節 災害救濟	(680)	第三節 扶持少數民族	(691)
第二節 社會救濟	(683)	第五章 婚、喪、地名管理	(692)
第三節 福利事業	(685)	第一節 婚姻登記	(692)
第三章 安置	(688)	第二節 殯葬管理	(693)
第一節 復退軍人安置	(688)	第三節 地名管理	(693)